



千葉明德短期大学 MAGAZINE 『月歩学歩』 2018年4月号

いい顔、希望のいい顔

---

一緒にやってみよう

---

成長が楽しみ

---

明日も来てね

---

嬉しい春だもの

---



# 4月号の内容



- ❖ 式辞 金子重紀学長 3
- ❖ 祝辞 福中儀明理事長 5
- ❖ 歓迎の言葉 前山純子 6
- ❖ 新入生挨拶 小柳里菜 8
- ❖ 保護者説明会 石井彰仁 9
- ❖ 12
- ❖ H29年度卒業生就職状況 池谷潤子 10
- ❖ 新任紹介 大澤ちずる 11
- ❖ 月歩学歩学生委員紹介 12
- ❖ 学友会 13
- ❖ 編集者ごあいさつ 14



■ 編集  
深谷ベルタ、久保瑠子



# 祝辞 福中儀明 理事長

116名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。またご家族の皆様方、おめでとうございます。

本学は1970年に創立されました。皆さんは第49回の入学生になります。

新しい出発という、このよき日、まず最初に本校の名前「明德」の由来について説明させていただきます。

今から約2000年昔に書かれた中国の古典「大学」の中に「明德」という言葉が出てきます。

「大学」といっても高校に続く大学のことではありません。「小学」に対する「大学」の意味です。「小学」といっても小学校のことではなく、「小さな学問」いわゆる、よみ・かき・そろばん、といった個人が生きていくために必要な身の回りの基礎的な学問——これが小学です。

一方、大学は小学よりもっとレベルの高い大きな学問——自分が生きるためではなく、世のため、人のためになる学問を意味します。

「大学」を究めるためにはどうしたらよいのか？この本の中には次のように書いてあります。——「大学の道は明德を明らかにするにあり」

「明德」とは人が天から得たすぐれた能力、人間として生まれながらに持っている人間性であり、明德を明らかにする、とはそれを輝かせる、ということです。

さらに続く一節には、「明德を明らかにせんと欲する者は先ずその知を致す。」とあります。明德を明らかにするためには、まず知恵と知識を身につけ知性を究める。そうすれば善悪の判断ができるようになり、心が正しく豊かになる——ということです。

本学は小さな組織ですが中身は豊富に詰まっています。同じキャンパス内には附属幼稚園があり、子供臨床研究所があります。学校附属としては千葉県内最初の明德本八幡駅保育園があり、さらに2番目の駅型保育園である明德浜野駅保育園もあります。姉妹法人である社会福祉法人千葉明德会の明德土気保育園もあります。5年前には千葉明德会の二番目の保育園として習志野市内に明德そでの保育園も開園しました。そして3年前には子供子育て支援新制度が発足し、それに合わせて県内八街市に明德やちまたこども園も開園しました。そして今年には附属幼稚園がこども園になり1・2歳児もはいるようになりました。

ですから皆さんはきょうから本学の学生になったわけではありません。入学と同時に幼稚園や保育園やこども園の研修スタッフになったと考えていただいたほうがよいでしょう。明德という総合・保育・創造・組織の一員に加わったのです。

皆さんのこれからの学びと活躍に期待し、理事長よりの祝辞と致します。



# 式辞 金子重紀 学長

新入生のみなさん入学おめでとう。また、保護者のみなさま方、おめでとうございます。

みなさんは、3月に高校を卒業したばかりの人、社会人を経験した人、それぞれの歩みをしてきたと思います。ただ、みなさんに共通しているのは、みなさんは、千葉明德短期大学を選んで今日の入学式を迎えたということです。校歌の中に「わが選び、われら学び」とあります。解説するまでもなく「自ら選んで自ら学ぶ」ということです。みなさんには、自ら選んだとの自覚が求められるとともに、私たち教職員には、選ばれたことに対して応える責任があります。

さて、みなさんが本学を選ぶにあたって本学は、アドミッションポリシー、つまり、こんな人に入学した欲しいというものを提示しました。面接のときに、訊かれた人も多かったと思います。

改めて言いますと、

- 1 「人が好き」と素直に思える人
  - 2 自分の気づきを大切にし、そこから学び始められる人
  - 3 自分と違う見方や考え方を面白いと思える人
- です。

このアドミッションポリシーに、「私は100%当てはまる」と言える人はいるでしょうか。

とても難しいことです。入学してほしい人であるとともに、目標にしてほしいことでもあるのです。

1番目の「人が好き」と素直に思えるということ。人は、生きてると時として、辛いことや悲しいことに会います。人から辛く充てられることもあります。ある人を嫌いになったり憎んだりすることもあります。そういうことがあってもなお「人が好き」と思えること、そのためには、人っていいなと思える体験を積み重ねてほしいのです。短大での友人や教職員、実習先での子どもたちや先生、たくさんの交流の中で、きっとそういう体験ができると思います。本学が「体験から学ぶ」ことを大切にしているのは、学んだ結果、「人が好き」と素直に思えるようになってほしいとの趣旨を含んでいるといえると思います。

2番目の自分の気づきを大切にし、そこから学び始められる人。みなさんの中で、みなさんの中で、数学が嫌いだった人、歴史が嫌いだった人、手を挙げてみてください。これまでの学びは、どうしても受け身の姿勢が強かったと思います。しかし、みなさんがこれから学ぼうとしているのは、こどもと向き合い、それぞれのこどもにあった最良のかかわりを求めていく保育の営みです。

そのためには、目の前の子どもから学び、自らのかかわりを見直していく姿勢が求められます。単に、知識を記憶するだけではこの姿勢は得られません。自らの体験のなかで得た気づきや感じたことを大切にし、これらを基に考えを深めていく姿勢こそが大切です。この学びを始められれば、きっとみなさん自身が豊かな学びができるとともに、こどもたちとの豊かなかかわりができると思います。

3番目の自分と違う見方や考え方を面白いと思える人。

千葉明德短期大学は、保育創造学科の単科大学です。なぜ、創造なのでしょう。ホームページには

子どもの育ちは誰一人同じではありません。こどもの理解とそのかかわりに、一つの答えはありません。保育は創造的な営みです。

と書かれています。

この中の多くの方が、卒業するとき保育者としてあるいは幼稚園教諭として現場に出ることになります。その時に、答えは一つではないといっています。むしろ答えはたくさんあるかもしれません。でも、答えがないことではないのです。それが創造することです。そのためには、いろいろな人の見方や意見を聞き、いろいろな見方や意見を吸収していくことが必要です。また、保育は

チームワークで行われます。いろいろな見方や意見を出し合ってより良い保育を目指していくチームが大切です。

とても一回では語れないようなお話になってしまいました。ただ、私たちには、みなさんに伝えたいたくさん思いがあります。私たち千葉明德短期大学の教職員一人一人がその思いを持っています。そして、その思いを伝えるためには、皆さんの思いを受け止めて初めてできることです。そうでなければ、私たちの一方的な思いになってしまうからです。ですから、みなさんも私たち教職員に対して、みなさんの感じたこと、考えたこと、悩んでいること、みなさんの中にある思いをたくさん伝えてください。必ず、誰かが受け止めてくれるはずですよ。

私たちの思い、みなさんの思いを伝えあいながら、2年間の学生生活を充実したものにしていきたいと思います。そして、みなさんが卒業するとき、千葉明德短期大学を選択したことが間違っていなかったといえることを願っています。

以上をもって、式辞とさせていただきます。



写真：飯田望友（2年）



# 歓迎の言葉

## 前山 純子

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんはどのような気持ちでこの日を迎えられましたでしょうか。新たな生活に、期待や不安など様々な思いを抱えていることと思います。

私は、平成29年度 訓練生として千葉明德短期大学に入学しました。

私にとって一年生の一年間はとても早いものでした。

一年前は「子どもが可愛い」、「子どもと関わりたい」という思いで入学し、今考えて見ると、「保育をする」ということがどのようなことかもわかっていませんでした。そんな私が一年間の学校生活の中で、実習を含めて学んできたこと、現在の保育に対する思いをお話ししたいと思います。

一年生の実習は、四月から月に一回の幼稚園実習と施設実習、保育所実習がそれぞれ二週間ずつあります。今からお話しするのは、保育所実習で1歳児のクラスに入った時のことです。1歳児クラスの子は、自我や自己主張が強くなりイヤイヤ期まっただ中でした。

戸外遊びの後に部屋に戻る場面のことです。Hちゃんが「まだ遊びたい」、「いやだ」といって玄関で中に入ることを拒みました。昼食前だったので、最初は、「Hちゃんご飯食べに行こう」と声をかけたり、保育者の真似をして「給

食室見に行こう」などと次の給食の時間に期待が持てるように話しました。そこへたまたま主任の先生が通りかかり、給食を持っていたため、「食べに行こうよ」とHちゃんが部屋に戻りたくなるような言葉かけをしました。しかし、他の子どもたちが部屋に戻って行く中、どの促し方をしてもHちゃんは、頑なに「行かない」といいました。この伝え方ではだめだと思い、Hちゃんが部屋に戻らなくてはいけないんだという想いから一旦離れることができるように所庭の近くまで一緒に外に出てみることにしました。Hちゃんを目線まで腰を下ろして手を握りながら「そっか、遊びたかったよね。お外遊び好きなんだね。今日は、何して遊んでたの」と聞くと、Hちゃんは、「遊びたかった。走るやつ」と答えてくれました。私はもう一度、「そっか、楽しかったんだね」というと、「うん」といいました。少し落ち着いてきたのではないかと思い、「じゃあ今日はもうご飯だから戻らないといけないけど、次にいつ外で遊べるか先生に聞いてみる？」と聞くと納得した様子で室内に入っていました。結局次の戸外遊びがいつかという明確な答えはもらえなかったのですが、Hちゃんは落ち着いたのか、それから「靴脱ごうか」というとすんなりと行動することができました。

次の行動に移る時の気持ちの切り替えに時間がかかる子どももいます。Hちゃんの気持ちの整理がつくまで、気持ちを受け止めて、共感し、一呼吸置いてからもう一度伝えたことで、Hちゃんが自分から行動できたのではないかと考えました。しかし、今回のエピソードでは、Hちゃんは無事に部屋に入ることができましたが、その日がたまたまHちゃんの気持ちに寄り添った言葉かけができただけであり、この対応が必ずしも毎回うまくいくわけではなく、違う日の同じような場面では、今回の言葉かけではうまくいかないかもしれません。子どもの気分や体調や前後の背景によっても子どもの気持ちが違います。さらに、同じ援助を違う保育者がしても子どもの反応が違ってくる場合があります。この子はこういう子だから、この援助と決めつけるのではなく、その日、その時の、その瞬間の子どもの気持ちを汲み取り援助をしていくことが重要だと気付きました。

イヤイヤ期の子どもへの保育者の関わり方は、保育者によって、様々な角度からの援助や言葉かけがありました。どれも正解、不正解が明確にあるわけではないので、瞬間瞬間で子どもと親身に関わる中で、これで良かったのか、次はこうしてみようと試行錯誤し、模索していくことが保育者の役割の一つだと考えました。

一年前はこのような考え方はできませんでしたが、今は一つの出来事でも様々な視点から考察できるようになってきたのではないかと思います。

一年間子どもと向き合う中で、保育者の援助を知れば知る程、保育の奥深さや、難しさを実感しています。だからこそ、「子どもと関わることは面白い」、「もっと学びたい」と思うようになりました。

新入生の皆さんの中には、私と同じように社会人経験を経て明德短期大学に入学した方や子育てをしながら学校に通われる方もいらっしゃると思います。私も最初は、うまく馴染めるのか、他の学生と話せるのか、今から勉強してついていけるのかなど様々な不安がありました。しかし、一年間の学校生活の中で、様々な年齢の方と接することで、実際に子育てをしている方の経験を聞くことができたり、自分にはない面白い発想や全力で楽しむ学生の姿など、とても良い刺激になりました。同年代だけではない関わりができることも明德短期大学の良さの一つだと思います。また、子育てをしながら学校へ通う不安を抱えている方もいると思います。二年間の学校生活は簡単なものではありませんが、同じ目標を持った仲間が集まるからこそ、年齢に関係なく、不安や楽しさを共有し、励まし支え合うことで、私は一年間乗り越えることができたと思います。

今ここにいる116名は、同じ目標を持った仲間たちが集まっています。互いに支え合い、切磋琢磨し、いろいろな人と関わることで自分自身の視野を広げていってほしいと思います。そして二年間の学校生活を充実したものにしていきましょう。





# 新入生挨拶 小柳 里菜 新入生代表

本日は私たちのためにこのような式を開いて頂き、ありがとうございます。これから始まる新入生たちとの学生生活に、不安がありますが、それ以上の希望と期待に、胸がいっぱいです。

私は中学2年生の頃から、親戚の赤ちゃんと触れ合う機会が増え、成長していく姿や、可愛い笑顔などを見ていくうちに、将来はこどもと接することの出来る仕事に就きたいと思うようになりました。高校生になってからは保育ボランティアなどにも参加し、ミルクをあげたり、読み聞かせをしたり、こどもたちと一緒に遊んだり、実際にこどもたちと触れ合うことで、こども一人ひとりに接する大変さ、気持ちを読み取ることの難しさを知りました。しかし、それと同時に、こどもたちの可愛い笑顔を見て、さらに、保育者になりたい、という思いが強くなりました。

そう思っていた時に、千葉明德短期大学の存在を知り、何度かオープンキャンパスに参加するようになりました。オープンキャンパスに訪れた時、緊張していた私に、優しく声をかけてくれた先輩や先生方がとても印象に残っています。堅苦しさがなく、とても話しやすかったです。授業では、こどもの歳時記や、手遊びなどを学び、初めて知ることが沢

山あり、どの授業もとても興味深く、楽しい授業でした。

4回のスタートアップ・カレッジを重ね、新しい仲間と一緒に授業を受け、話し合いなどをしたことで、これから2年間、保育者という同じ目標を目指す仲間同士、意識を高め合えたのではないかと感じます。

私が目指す保育者は、こどもからはもちろん、保護者の方からも信頼してもらえる保育者です。そのためには、こどもと同じ目線になって物事を考えること、一人ひとりと丁寧に接することが大事だと思います。毎日会うこどもの、ちょっとした変化に気づき、その気づきを保護者に伝えられる、些細なことにも気づくことが出来る、そして、笑顔を大切にできる保育者になりたいです。

私たちがそれぞれに目指している保育者になれるよう、千葉明德短期大学での2年間の1日1日を大切に、自分の目標に向かって努力し、充実した学生生活を送っていきたいと思います。

最後になりますが、これから2年間、色々な人と関わり、人間関係を築き、自分たちの夢に向かって頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

# 保護者 説明会 石井 章仁



## 保護者の皆様へ（実習・就職について）

保護者の皆さまには、なかなか学校には来ていただく機会がないため、入学式後のわずかな時間を利用して、実習や就職に関するインフォメーションを行っています。概要は以下のような点です。

### 1. 実習は、本学の学修の中心です

現場での実習は、本学の学びの中心と位置付けています。1年間の学びの成果が発揮される貴重な機会です。一方で実習は、日頃の学習の成果だけでなく、日常生活の全てが出るといってよいでしょう。自身の立ち居振る舞いや掃除・洗濯・調理などの経験など、日常生活の全てが、実習の成果や評価につながる場合があります。

したがって、日常生活でも「生活リズム」をしっかりと生活することが必要です。朝きちんと起き、栄養ある食事をしっかりととり、十分な休息をとるとともに、適度な運動を行いましょう。アルバイトの時間は節度を持って行うようお願いいたします。片付けや整理整頓、掃除などを自分で行うなど、「自立・自律」した生活が実習や学習の基礎となります。

### 2. 実習は、学生にとって大変厳しい実践の場です

実習は、2週間もしくは3週間という“期間限定”の取組とはいえ、学生にとっては重要な位置づけとなる反面、社会の入り口としての厳しさも求められます。実習中は、記録や指導計画の作成に時

間がとられ、土日であってもアルバイトなどをする余裕もありませんし、体調管理も重要な要素となります（近年、実習期間を満了しても記録等の不備で単位が取れない方もいます）。実習前後や実習中は、家庭での食事や励ましなど、最大限ご配慮下さい。

### 3. 短い在学中に積極的に現場体験やフィールドに出る体験をしましょう

授業などで、保育や福祉などの現場や都市や文化、自然などを学ぶためのフィールドに出る機会が多くあります。学内ではできない学びの機会に積極的に参加しましょう。近年、費用や不安などからあまり参加しない学生がいます。現場での学びは有意義であり、就職先を探す際の道標ともなります。交通費や参加費などへのご支援をお願いいたします。

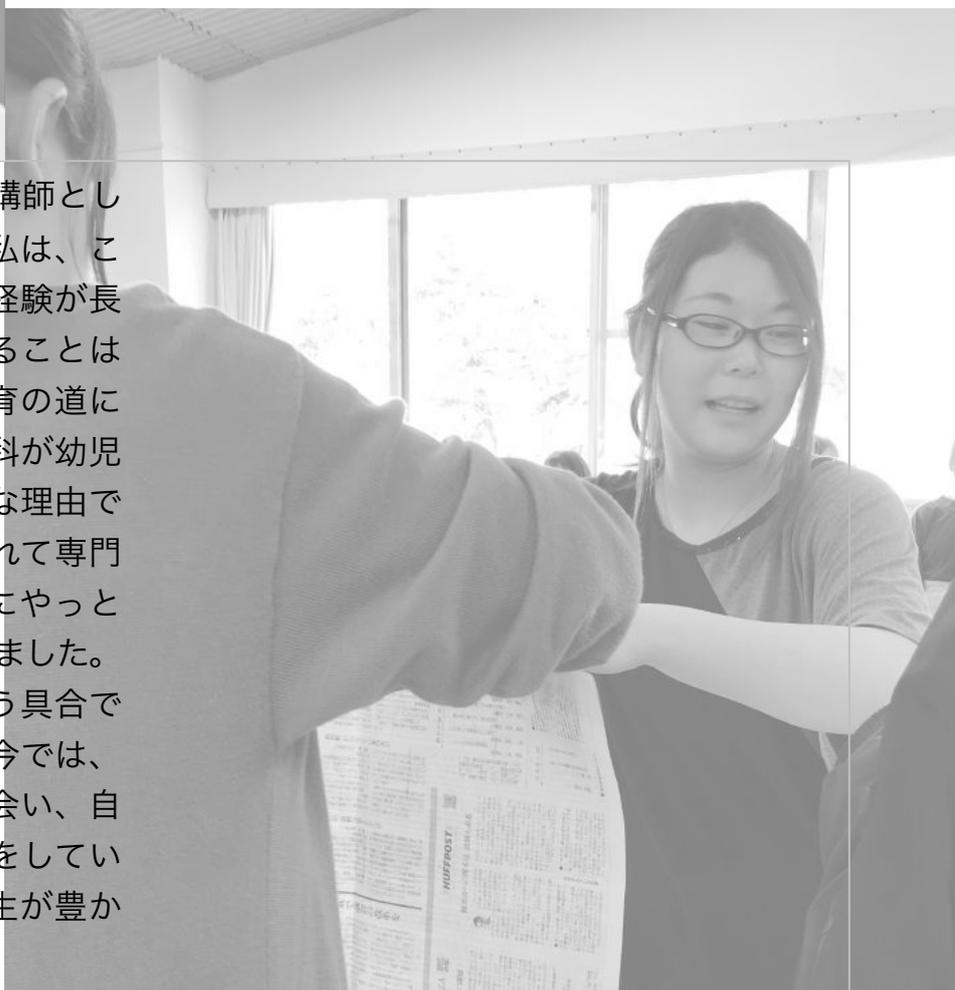
### 4. 就職活動の時期は一般よりも遅い

今年度の就職率は100%を達成しました。近年、特に保育所への就職率が上がっています。保育や福祉の現場の就職は、通常の企業よりも遅く、2年次の9月くらいから始まります。あまり早い段階から「決める」ことをあせらず、生涯に亘り働けるような就職先を見つけるために、本人の「選択」を重視し、ゆっくり時間をかけて、自身に合った就職先を目指すよう指導いたしますので、ご家庭でも支援のほどよろしくようお願いいたします。



# 新任教員 紹介 大澤ちづる

今年度より千葉明德短期大学に講師として着任しました大澤ちづるです。私は、これまで幼稚園の教員としての現場経験が長く、学生さんを目の前に授業をすることは初めての経験になります。私が保育の道に入ったのは、たまたま合格した学科が幼児教育科だった、という何とも残念な理由です。大学では、学年が上がるにつれて専門的な勉強が増え、大学3年生の頃にやっと幼児教育に興味をもてるようになりました。とりあえず経験してみよう、という具合で教員生活をスタートしましたが、今では、保育を通して、いろいろな人に出会い、自分の興味を広げられたことに感謝をしています。保育を通して、皆さんの人生が豊かになることを願っています。





## 2年生 高橋 愛実

月歩学歩委員2年の高橋愛実です。たこ焼きとタピオカが大好きです。趣味は絵を描くことです♪愉快的仲間たちと委員をすることができるのでとても楽しいです！

実習の時に役立つ情報や行事の様子などを分かりやすくお届けできたら良いなと思っています！皆さんが読みたくなるような記事が作れるように頑張ります！宜しくお願いします(\*^^\*)♪

## 2年生 高島 成実

同じく2年の月歩学歩委員の高島成実です。先輩に誘われたのがきっかけでこの委員に加わりました。メンバーはみんな楽しい人たちで、それと同時にお互いに協力し合い、助け合える頼もしい人たちです。

掲載内容を考えたり原稿を作成する時間は、みんなで意見を出し合い分担して行っています。時には笑いが起こったり、とても楽しい時間です。

昨年度よりもたくさんの方が『読みやすい！』『面白い！』と感じ、たくさんの人に読んでもらえるように頑張っていきたいと思います。活動の様子が少しでも気になった人は、気軽に声を掛けてください！特徴はデカイ人です。(笑) よろしく願います！

## 2年生 秋葉 麗奈

こんにちは！月歩学歩委員2年の秋葉麗奈です。私は、最初からのメンバーではなく、途中から委員のメンバーとして参加させていただきました。

委員のメンバーはとても陽気で楽しい人です！いつもお喋りをしながらだったり、次に月歩学歩に載せる記事の話をしたりしながら活動しています！とても楽しい委員です！！

★

一年生の皆さんも興味が湧いたらいつでも月歩学歩委員に声をかけて下さい！よろしくお願いします！



# 学友会 安藤 優真

4月25日(水)の昼休みに、講堂にて今年度の「学友会選挙」が行われます。そのために、1年生からも立候補者を絶賛募集しているようです！さて、今回は昨年度も学友会として活動していた2年生の安藤 優真さんに、月歩学歩委員がインタビューしました！

**Q.今年度も学友会に立候補したきっかけはありますか？**

A.私は昨年度、オープンキャンパスに来た高校生とある話をしていました。

それは、『来年度はもっとたくさんのイベントを催していきたい。』というものです。

その時は、「そうならいい」という気持ちで話していましたが、それを信じて入学してくれた1年生がいると思うと、それを実現したいという気持ちが大きくなり、同時に「学生みんなが楽しいと思えるような学園生活にしていきたい」と思い、今年も立候補を決めました。

**Q.昨年度も学友会に所属していましたが、主にどのような活動をしていましたか？**

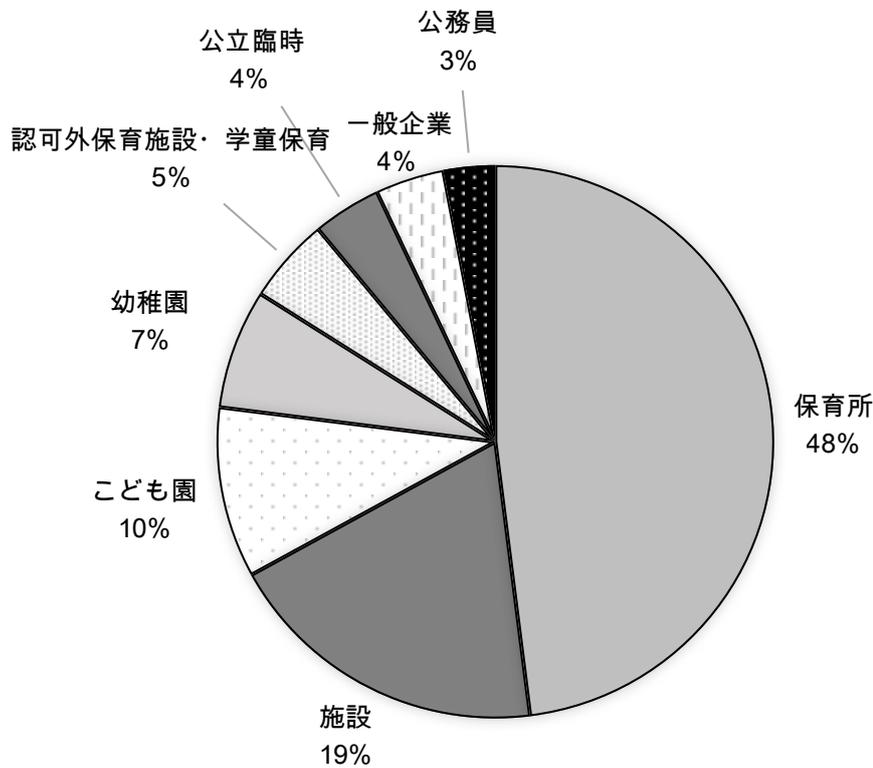
A.昨年度は、学友会としてのイベントは少なかったように感じますが、学生やゼミが主体となって開催されるイベントでは、みんなが楽しめるようにと裏で支えてきました。だからこそ、今年は積極的にイベントの企画を考えていきたいと思っています。

**Q.まだ役員は決定していませんが、安藤さんの中でやってみたい企画はありますか？**

A.まだ任期が残っている4月の間にいくつかの企画をやらせていただきましたが、中でも特に好評だったのが「なんでも相談室！」でした。昼休みや放課後に学友会室を開放して行っていました。これからも時間の許す限り続けていきたいと思っています。そして、来月には参加自由のスポーツ大会を計画していて、現在は準備中の段階です。その他に季節事のイベントなど、楽しい一年間だったと皆に思ってもらえるような活動をしていきたいと思っています。



# 29年度 卒業生の 就職状況



平成29年度の就職率は100%でした。  
 どうやら、保育所に就職する人が大半を占めているようです。皆さんの就職先を考える参考にしてみてください。

ることが大切！』とアドバイスをいただきました。就職関係で相談したいと思ったときには、是非、声を掛けてみてくださいね！

また、就職担当の石井先生、池谷先生、築城さん、地挽さんからは、『いろいろな園を見た上で、自分に合った職場を焦らずじっくりと考え



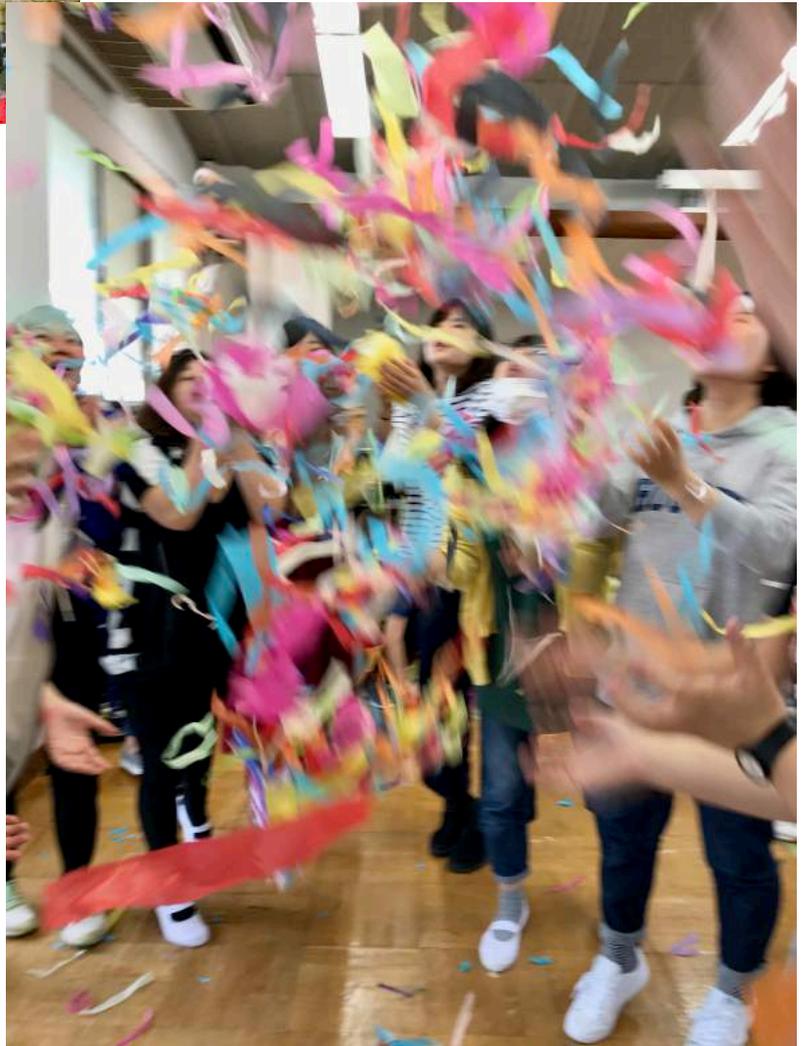
# 編集者 ごあいさつ 深谷ベルタ 久保瑤子

『月歩学歩』のゴッドマザー（命名者）でもある深谷です。もともと『月報』という名前だった本誌を長年編集しています。保育者らしい遊び心を込めてことば遊び風に、学生達の学びの歩みと月日の歩み（生活や成長）を伝えたいという意味で『月歩学歩』にしました。よろしくお願ひします。 スマホを使うようになってから写真を撮ることがとても好きになりました。本誌に写真もたくさん掲載しています。（たまに例外もあるけれど、殆どの写真がそうです。）可能な限り本誌を読んでくれる皆さんに学生達の素直な表情を見ていただきたいからです。外国人で、日本語を26歳になってから覚えました。日本語も大好きです。皆さんと繋がるための大事なツールだからです。言うまでもないが母語であるハンガリー語も英語も大好きですよ。生き物も大好きです。特に花や木々、虫等です。子どもの時からそうです。そして、保育者になろうとする学生達にも好きになって欲しいので、校内で虫を飼ったりすることもあります。自分で楽器は鳴らせませんが音楽も大好きです。色々なジャンルを聞きます。でも、なぜかJ-POPを殆ど知りません。芸能人も。料理も好きです。それから、それから歩くことも。本を読むことも。好きなことの殆どは幼少期以来のこと。年を重ねると人間は子どもに戻ると言いますがそれは間違いです。子どものようになりません。好きなことが復活するだけです。だからこそ幼少期がとても大事ですね。:):)

\*\*\*\*\*

昨年に引き続き、月歩学歩委員を務めさせていただきます教員の久保瑤子です。明德に着任してから1年が経ちました。この1年、日々学生みんなの素晴らしいパワーに感動し、先生方の熱い思いに感動し、明德でお仕事をさせていただける喜びを強く感じました。今年は昨年よりもパワーアップして、明德で起きている日々の心動かされる出来事を、ベルタ先生と学生委員のみんなと一緒にお届けできたらと思っています。今年も、ぜひこの月歩学歩を楽しくご覧いただき、読者のみなさまと一緒に感動を共有させていただけたら嬉しいです。よろしくお願ひいたします。

\*\*\*\*\*





## 学事日程

### 4月

25日 (水)

❖ 学友会選挙

27日 (金)

❖ 1年生 保育体験

30日 (祝・月)

❖ 2年生 月曜日課 1年生 休講

### 5月

3日 (祝・木)

❖ 2年生 木曜日課 1年生 休講

11日 (金)

❖ 2年生 教育実習事前訪問

❖ 1年生 保育体験

18日 (金)

❖ 1年生 保育体験

27日 (日)

❖ 1年生 障害者スポーツ大会ボランティア